

令和7年8月20日(水)

出席委員：(選出区分別五十音順)

木下 順夫委員、鈴木 美穂委員、田中 和也委員、中村 路子委員、宮本 悟委員、
井上 修一委員、小山 貞子委員、小泉 勝長委員、齋藤 誠委員、原田 留美委員、
浅井 英夫委員、佐々部 一委員

欠席委員：なし

傍聴者：0名

◆開会前に前回の要点録の確認を行い、修正なしで決定した。

◆議事1 令和6年度健康福祉部高齢支援課・介護保険課の目標の達成状況等について(報告)

・・・資料1 令和6年度健康福祉部高齢支援課・介護保険課の目標の達成状況等について

【事務局】 (資料に基づき説明)

※質疑等なし

◆議事2 第9期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗管理(令和6年度実績)
について(報告)

・・・資料2 第9期多摩市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画進捗管理(令和6年度実績)

【事務局】 (資料に基づき説明)

【委員】 18ページの保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金について、令和5年度に11位だったのが令和6年度に140位となっています。要因は何ですか？

【事務局】 令和5年度と令和6年度で交付金の評価の仕組みが大きく変わったことが主な要因と考えています。具体的には、評価を行う保険者の負担に配慮し評価指標が見直され、保険者が自己評価で点数付けをする項目が減り、調査やデータベースに基づいた客観的な数値に基づいて全国順位を評価する部分が増えました。その結果、順位としては下がったという分析をしております。

【委員】 同じく18ページの保険者機能強化推進交付金について、目標Ⅱの「公正・公平な給付を行う体制を構築する」という項目は、多摩市は38点となっているのはなぜですか。

【事務局】 令和6年度の評価は、令和5年度の実績をもとに行っていますが、令和5年度はコロナの影響でケアプラン点検がまだ再開できていなかったため点数が低かったという事情があります。ただ、令和6年度から点検を再開したので、来年度の結果をみて改めて皆さんにご議論いただければと思います。

【委員】 この会議の場ではないのかもしれませんが、高齢化が今後ますます進行する中で、医療サービスについての課題や問題点は何か挙がっているのでしょうか。介護サービスはニーズに応じてサービス供給量をこれくらい増やしていくというような方向性が示されていますが、医療サービスの需要の予測などはされているのでしょうか。

【事務局】 この計画は介護分野の計画なので、医療サービスを増やしていくという目標は立ててはいませんが、この会議とは別に在宅医療・介護連携推進協議会という会議体において、在宅で介護

サービスを受けている人たちが、より良い医療を受けられるよう関係機関が連携するという取組について議論をしています。

【事務局】 ご指摘の点は大切な観点であると思います。医療機関へのアクセスの点からすると、介護サービスに比べれば範囲が広く、八王子、日野、多摩、稲城、町田の5つの市で構成される南多摩医療圏という範囲でサービスの受け皿などを検討することとなります。一方で、介護サービスは、地域密着型サービスなど市町村レベルで必要な介護の受け皿を作っていくという考えなので、このあたりの地域の捉え方というのも医療と介護とで違いがあるところかと思います。

【委員】 15～16ページの介護サービスに係る給付費の状況という表について質問です。全体的に計画値より実績値が少なくなっているとのことですが、これはどのように受け止めればよいのでしょうか。

【事務局】 計画していたよりも介護サービスが使われなかったということです。介護予防などの効果が一定程度出ているという考え方が一つにはあるかと思います。

【委員】 例えば、16ページの一番上の訪問入浴介護なんですが、計画は492千円とありますが、実績は54千円とあり、随分と差があると思ったのですが、実際にはあまり使われてなかったということなののでしょうか。

【事務局】 16ページの一番上の訪問入浴介護は要支援1、2の方の訪問入浴介護に係る給付費ということになりますが、想定よりは使われていなかったということになります。

【委員】 計画値は根拠のある数字なのですね。

【事務局】 はい、サービスごとの経年変化などを見て令和6年度はこれくらいになるだろうと予測を立てています。

【委員】 この表のうち、マイナスになったサービス、計画よりも実績が少なかったサービスというのは良い方向で見たほうがいいのか、それともそうじゃないのか。評価としてどうなのかなというのを知りたいと思うのですが、いかがでしょうか。

【事務局】 どちらの視点もあると思います。介護予防の効果が出て計画よりも少ない実績で済んでいるという見方もありますし、一方で、計画値から大きく乖離しているところは本当にその予測値で正しかったのかといった検証も必要かと思います。

【委員】 多摩市の中部地区は多摩市の他の地域に比べてもかなり高齢化率が進んでいて、その受皿としての事業所というのはやはり全然足りてないというのは実感としてあります。その中部地区を支える事業所の数が足りていないというのと人材が不足しているというのは実際にあります。

計画に対して実績値が少なかったというのは、サービスの依頼があったとしてもその提供ができるだけのマンパワーがなかったという部分も多分実態としてあるんじゃないかと思います。

【委員】 かなり深刻な問題ですね。

【委員】 そうですね。高齢化が進んでいる中で事業所が少ないので、それに見合ったサービス提供量はなかなかちょっと苦戦しているなというのは実際あります。

先ほど、介護予防サービスに係る訪問入浴介護、計画は492千円で実績は54千円と記載がありましたが、訪問入浴介護は自宅に入浴車が来てサービスを受けるというものなので、要支援1、2の方でこのサービスを使う方はそもそもそこまで多くないのだろうというのはあります。実際に使う方は要介護3以上といった方が多いです。

【委員】 逆に深刻ですね、それは。

【委員】 そうですね。今の介護保険制度の中では難しい部分というのはあるかもしれません。た

だそんな中でも、13ページから14ページで触れられている多摩市の人材の実務者研修の助成事業などは、資格がない方でお仕事をしたいという方には良いものだと思いますので、ぜひ継続して予算をつけていただきたいと思います。

◆議事3 多摩市地域包括支援センター運営協議会の委員の推薦について（協議）

・・・資料3-1 多摩市地域包括支援センター運営協議会の概要

資料3-2 令和7年度多摩市地域包括支援センター運営協議会スケジュール

【事務局】 （資料に基づき説明）

【委員】 この会議の過去の議事録を見させていただきましたが、今年度も大体平日の夜の時間帯とあって大丈夫でしょうか。

【事務局】 基本的には、今までは夜7時から8時半ということでやってきましたので、当面その予定でございます。ただ、協議会委員の皆様の御意見をいただきつつ、協議会の中で開催時間について協議を行った上で、変更する可能性もあります。

【会長】 ただいまの事務局の説明を受けまして、地域包括支援センター運営協議会委員を引き受けていただける方、いらっしゃいますでしょうか。

（鈴木委員、挙手）

【会長】 それでは、鈴木委員を地域包括支援センター運営協議会の委員として出席いただくことに御了承いただけますか。

（委員了承）

【会長】 ありがとうございます。では、鈴木委員、よろしくお願いします。

◆議事4 多摩市高齢者実態調査の調査項目について（協議）

・・・資料4-1 多摩市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 調査項目

資料4-2 多摩市在宅介護実態調査 調査項目

資料4-3 多摩市介護保険事業所調査 調査項目

【事務局】 （資料に基づき説明）

【委員】 資料4-3の介護保険事業所の調査の回収率が68.3%ということでしたが、167事業所あるのに114事業所しか答えていないということは、実態がよく見えていない可能性があります。特に小さな事業所だと人手が足りず調査に回答できない傾向があると思われるため、小規模事業所の実態を把握できていないかもしれません。

今、介護事業所の中で課題になっているのは、今後の5年先、10年先の介護人材をどうやって採用、育成していくかということだと思います。また、実務ではどんな介護記録ソフトを入れているのか、どんなICTを活用しているのか、こういったセンサー類とか見守り機器を導入しているのかということも実態としては必要な部分なのかなと感じています。

また、今後、核家族化がより加速化し、75歳以上の独居世帯が今以上に増えていくということは、フレイル予防や介護予防を一生懸命推進しても、介護サービスへの需要は増えていくのだと思います。なので、要介護状態の方たち、特に認知症の高齢者の方たちを支えるサービスがどれだけ必要なのかをしっかりと数値化する必要があるように思います。

そうすると、やはり事業所の実態を把握するための回収率を上げる工夫をされたほうが良いのかなと感じます。書面が良いのか、インターネット上のアンケートフォームのようなもののほうが良い

のか、そのあたりは御検討されたほうがいいのかなど感じました。

【事務局】 介護保険が始まった25年前、多摩市は65歳以上の単身世帯が3,300世帯ぐらいでした。2025年は1万3,000世帯で、数的には1万世帯増加しています。それから、前期・後期高齢者の割合というのも令和2年に前期50%・後期50%の割合になり、それ以降は割合が逆転して、今は75歳以上の後期高齢者が6割、前期高齢者が4割ということで、今後は加速度的に後期高齢者の割合が増えていきます。そのことに伴って認知症の方の人数や要介護認定率は、どんなに介護予防の努力をしても上がってってしまうという状況にはなると思います。

ただ、要介護認定率の低さは都内ではいつもトップクラスで、直近の数値で16.02%とはなりましたが、それまでは、都内で唯一15%台を保っていました。いろいろ比較をしてみると、やはり集合住宅や団地に住んでいる方のほうが要介護認定率が低いというようなデータが出ていますので、団地の階段が実は介護の予防に役立っているかもしれないということがあるかもしれません。

なので、こういった仮説を検証する目的で実態調査を実施し、エビデンスをしっかりとつかんでいきたいと思います。また、介護人材については、ICTを活用して現場を効率化するとか、外国人に頼らないとやっていけない時代が来ていると思います。実際に国のほうでも、訪問介護については外国人を解禁するという流れになっています。

このように、多摩市の状況や国の動向などいろいろと考えながら次の計画を立てていく必要があると考えております。引き続き皆さんの御意見をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いします。

【事務局】 補足ですが、先ほど御指摘いただきましたように回収率を上げるために、事業者への調査は今回からインターネットのフォームで回答できないか検討しております。

【委員】 この高齢者実態調査は毎回興味を持って状況を見ています。「多摩市みんなの笑顔が広がる歯と口の健康を推進する条例」が施行されたということで、かかりつけ歯科医があるかないかというようなこと、1年以内に訪問も含めて歯科医にかかったことがあるか等を設問に加えていただけると今後の高齢者施策に役立つ面白い数字が見えてくるのかなと思います。

【事務局】 この議題については、資料を今日この場でお示したところで、皆さんもいろいろ考えたいなというところもあると思うので、もし追加で御意見がありましたら、9月末までに事務局宛てにメールで御連絡いただければと思います。

【会長】 では皆様、9月末までに何か意見があるようだったら、事務局にメールで連絡いただければと思います。よろしくお願いいたします。

議事5 その他

小泉委員から令和7年9月27日に実施予定の介護保険市民フォーラム「認知症と介護保険サービスについて知ろう」の案内のほか、事務局から事務連絡を行った。

【会長】 それでは本日の議題は以上となります。これで介護保険運営協議会を閉会いたします。本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。

— 了 —